



足立入谷小だより

令和元年12月2日

足立区立足立入谷小学校

校長 添野 誠

子どもの安全を改めて考えると

校長 添野 誠

先日は学芸会をご観賞いただき、ありがとうございました。お陰様で劇そのものは充実し、会の運営も順調に運びました。子どもたちには、この経験が何に活かせるのか考えるように促しました。また、11月末に5・6年生対象の和菓子体験教室や入谷中学校生も招いた狂言公演もありました。和の道のプロの技に接し、子どもたちは歓声を上げておりました。それにしても、この子たちは素直に反応してくれます。ここが彼らの良いところですね。教えていただいた方々も非常に喜んでおりました。

話は変わり、あの気になる事件についてです。大阪の6年生女兒が短時間で行方不明になり、栃木県で発見された事案です。ここで「気になる」2点を考えたいと思います。

① 学校が嫌、家も嫌

この子はそんなことを言っていたそうです。中でも「勉強が分からないから学校が嫌い」というのは看過できない言葉です。先生たちの教え方が不十分なのか、学習する意欲作りが不徹底だったのか。本校も顧みなくてはならない点です。また、この子自身の学びに向かう姿勢や学習環境に問題があったのかもしれません。とにかく、この子は楽しく学ぶことができずにかわいそうな状態であったことがうかがえます。

② SNSで知り合った

きっかけは「荒野行動」という中国系の不特定多数を相手または仲間にして戦うSNSゲームで知り合い、そこから事件に発展したようです。①が背景にあって、SNSにのめり込んだのかもしれません。スマホは便利ですが怖い機器でもあります。もともとは電話であったものが、カメラにもなり、コミュニケーションツールとなり、複合情報機器となりました。その特性から情報流布や犯罪の手口にまで利用される怖いアイテムが今のスマホです。

これを十分に理解しないで使っている子どもが、今回のような事件に関わってしまうということでしょうか。学校でも指導はしていますが、それだけでは追いつきません。何よりも保護者の監督のもとで正しく活用させることです。

— 約束事を決めて正しい制限の元で使わせる — ことが大事です。

年末を控え、ますます世の中は賑わいます。親にスマホをせがむ子もいるでしょう。私たちは、子どもたちにとってすてきな学校であることに努めます。皆様も、どうか十分にお子様の安全と安心に心を配られ、幸せな新年を迎えられることを願います。本年はありがとうございました。



12月の主な行事予定

日	曜	行 事	スマ	16	月	全校朝会 避難訓練 (持久走大会予備)	○
1	日	区小バスケ大会		17	火	紫磨園訪問(1・2)	○
2	月	PR集会 こま・げん玉月開始	○	18	水	5時間授業 小中連携授業	×
3	火	足立入谷まつり	○	19	木	音楽朝会 仲よし班活動 走り方教室(5)	×
4	水	B4 大根掘り(1・2) 持久走事前健康相談	○	20	金	B 保護者会(定14:05 高15:00) 美しい日本語教室(56)	×
5	木	社会科見学(4)	○	21	土		
6	金	こま・げん玉集会 中よし班活動	○	22	日		
7	土			23	月	全校朝会	×
8	日	KITドッグビー		24	火		×
9	月	全校朝会 保育園交流(5)	○	25	水	B 大掃除 冬季休業前集会	×
10	火	安全指導・点検 OP	○	26	木	冬季休業日始	
11	水	B オケストラ教室(6) 果物出前授業(4.5) クラブ	○	27	金	閉校期間始 (~1/6)	
12	木	児童集会	○	28	土		
13	金	薬物乱用防止教室(6)	○	29	日		
14	土	土曜授業 持久走大会 もちつき大会	×	30	月		
15	日			31	火	大掃除	

※()の中の数字や文字は対象学年を示します。×はスマイル未開催日 Sはスクールカウンセラー配置日 OPはオリビクタム実施日

みんなで創った学芸会

学芸会委員長 小林 陽子

11月15日(金)、16日(土)に学芸会が行われました。学芸会は3年に一度の大きな行事であるため、1から3年生にとっては初めて、4から6年生にとっては最後の学芸会となりました。

足立入谷小学校では「みんなで創ろう 心おどる 感動の物語！」をスローガンに、一生懸命練習に取り組んできました。見ている人に気持ちを伝えるためにはどうすれば良いか、と試行錯誤しながらクラス一丸となって毎日頑張っている姿を見て、頼もしいと感じると同時に、とても素晴らしいと思いました。保護者の皆様には、衣装や小道具の準備、ご家庭での練習のお付き合ひ等様々な面でご協力をいただきまして、ありがとうございます。また、当日もご多用のなかご来校いただき、あたたかい拍手をおくっていただきましたことに心から感謝申し上げます。



この学芸会を通して子供たちが学んだ「最後までやり遂げること」、「みんなで力を合わせること」等の大切さを今後も忘れずに学校生活を送っていくことができるよう、声かけと励ましを続けていきます。

親子まちぐるみふれあいクリーン作戦 教務主任 林 岳

親子まちぐるみふれあいクリーン作戦、ご協力ありがとうございました。活動から、親子で考えて欲しいことを書かせていただきます。

普段、教室にごみが落ちていても、残念ながら、ほとんどの児童は自分から拾おうとはしません。「自分のではない。」「誰かが拾ってくれる」と、他人事のように考えてしまいます。しかし、教室が自分の場所と考えている児童は、すぐに拾うという行動に移せます。道端に落ちているごみを、何でもかんでも拾うのは難しいです。しかし、教室と同様、「自分のまちをきれいにしたい。」という気持ちが育ってくれば、少なくともその辺にごみを捨てるような大人には、決してならないと思います。そして、今回の活動が、そのきっかけになってくれたら嬉しいです。これから先、自分の場所を大切にできる人がいっぱいいる、そんな「まち」を望まずにはられません。



萬 狂 言 鑑 賞

特活担当 西浦 紀子

11月25日(月) 文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」として本校が選ばれ、狂言方泉流の萬狂言より5名の狂言師の方が来てくださいました。貴重な機会のため、入谷中学生も全員招待しての公演をお願いしました。

体育館の舞台に松幕や柱や松の木が設置され、狂言「柿山伏」「附子」の公演のほか、狂言についての説明や、代表児童の茸の実演がありました。また、ワークショップに参加した5・6年生が謡い、狂言師が舞う、小舞「兎」の共演もありました。昨年の能楽鑑賞に引き続き、一流の舞台芸術を鑑賞することができ、日本文化をたっぷり味わう2時間となりました。

今後もこのような機会を活用し、子供たちが体験し、感動できるような場を多くもてるよう働きかけていきたいと思ひます。

